アシュフォードの紡ぎ車で

手紡ぎを学ぶ

ashford
WHEELS & LOOMS

ドライブバンド
はずみ車
フライヤー軸
フライヤー軸受け（前）
フライヤーフック
ボビン
フライヤー
吸込み口
フライヤー支柱
コンロッド
フライヤー軸受け（後）
ブレーキバンド
フライヤー
プーリー
スプリング
フライヤー台
ドライブバンド調節ノブ
ブレーキバンド調節ノブ
引き出しフック
ボビンたて
ペダル

ようこそ、手紡ぎの世界へ・・・

アシュフォードの紡ぎ車は、とても楽に糸紡ぎができるように設計されています。手紡ぎへの最初の一歩をこのブックレットがお手伝いします。手紡ぎにはたくさんの方法がありますが、あなたもすぐに自分なりのスタイルを見つけて、様々な糸を紡げるようになることでしょう。アシュフォードの紡ぎ車はどれもほぼ同じ構造と部品を使っていますので、ここではトラディショナル紡ぎ車で進めてゆきます。素材としてウールスライバーを使っていますが、アシュフォードの紡ぎ車では、他にもシルクやリネン、コットン、そして様々な動物繊維を紡ぐ事ができます。

部品の名前に慣れる - ペダル、ボビン、フライヤー、プーリー、フライヤー軸、吸込み口、フライヤーフック、引き出しフック、ドライブバンド、ブレーキバンド、各調節ノブ、前後のフライヤー軸受け、ボビンたて・・・

ブレーキバンドの調節 - ブレーキバンド調節ノブを回して、スプリングが伸びはじめるくらいの張りにします。張りすぎると、糸が切れたりペダルが重くなる原因となります。

ドライブバンドをかける - シングルドライブの場合は、フライヤープーリーの大きな輪に、ダブルドライブの場合は、フライヤープーリーの一番大きな輪とボビンプーリーの小さな方の輪にかけます。

用意するもの

ウールスライバー約50g、中細の毛糸（みちびき糸-1.5m、練習用-10m）、イス、ニッディノッディ（かせとり棒）。

練習

各ステップをじっくりとひととおりやってみて、ペダルを踏むリズムと手の動きの感じをつかみましょう。

メンテナンス

ベアリングなど、摩擦の起こる部分すべてに定期的に油を注します。詳しくは、組立説明書をお読み下さい。

手紡ぎの道具

おすすめアクセサリー

メンテナンスキット

ジャンボフライヤーユニット
- 変わり糸の紡ぎに。

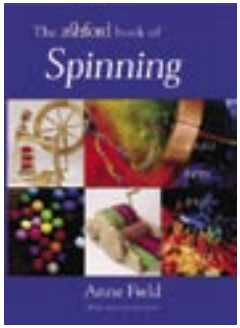
ニッディノッディと
ミニニッディノッディ
- かせとりに。

ハンドカーダー
- カードがけとブレンドに。
細目と粗目があります。

フリックカーダー
- フリースの紡ぎに。

スピニングチェアー
– 背が真直ぐになっているので、紡いでいる時に自由に動けます。

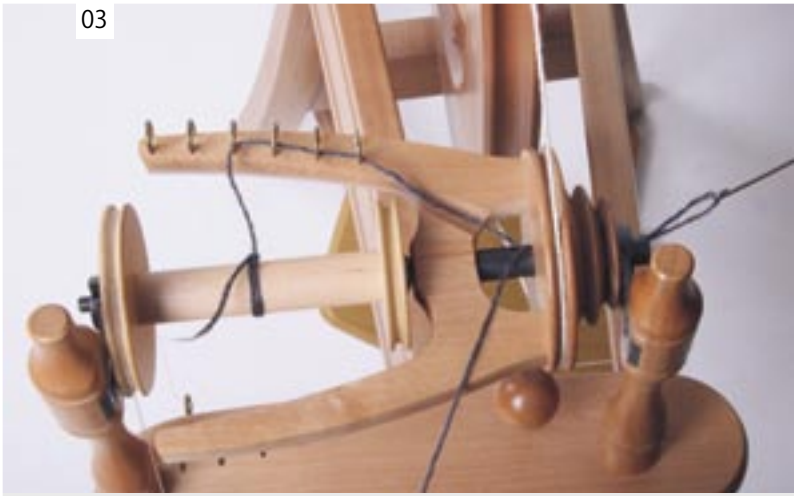
The Ashford Book of Spinning
– アイディア満載の手紡ぎのテキストブックです。



ペダルを踏む練習：紡ぎ車の前に座って、ペダルに足をのせます。はずみ車を手で**時計回り**に回し、次いでペダルを踏みはじめます。かかととつま先の力を使って踏んで、回したり止めたりを慣れるまで続けます。

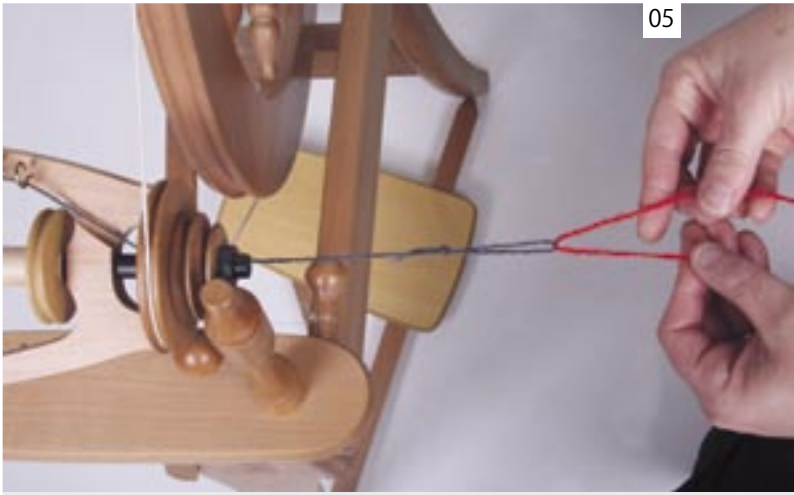
ペダルが重いと感じる時：ドライブバンド調節ノブを回して、ドライブバンドの張りを弱めます。紡ぎ車が前に滑る場合は、向こう側にではなく、真下に踏むように心がけます。また、イスと紡ぎ車の下にラグを敷きます。

みちびき糸を結ぶ：用意した1.5m程の中細毛糸を、みちびき糸としてボビンにしっかりと結びます。



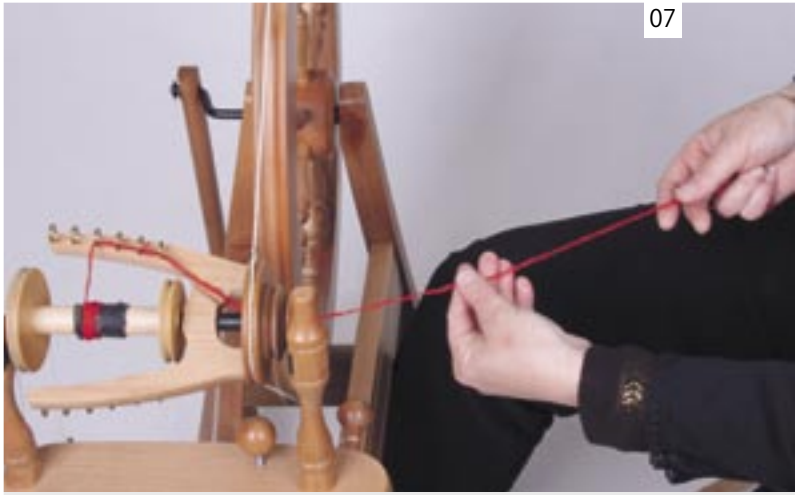
みちびき糸を4番目のフライヤーフックにかけ、引き出しフックを使って吸込み口から引き出します。

左手でみちびき糸を持ち、はずみ車を時計回りに3回くらい回して、吸込み口からみちびき糸がだいたい50cm出ているところまで巻いたら、はずみ車を止めます。これが糸をボビンに巻き取る始まりとなります。

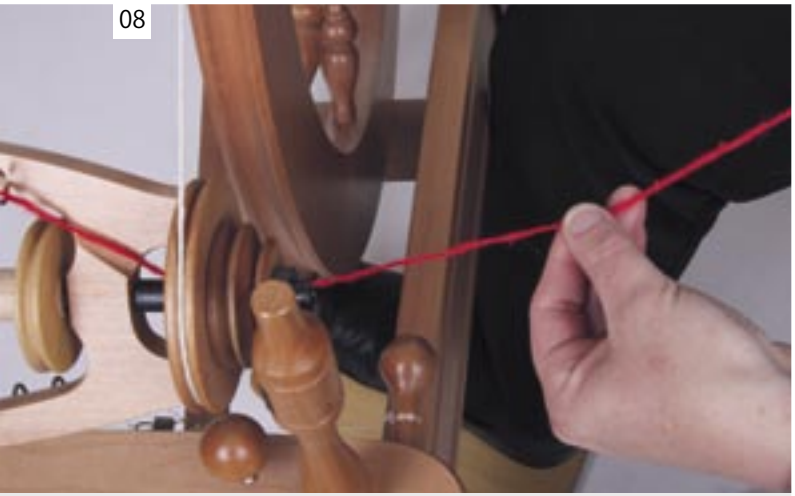


手紡ぎの練習：みちびき糸の端を輪に結び、用意した練習用の毛糸（約10m）をその輪に通して、10cmくらい折り返します。

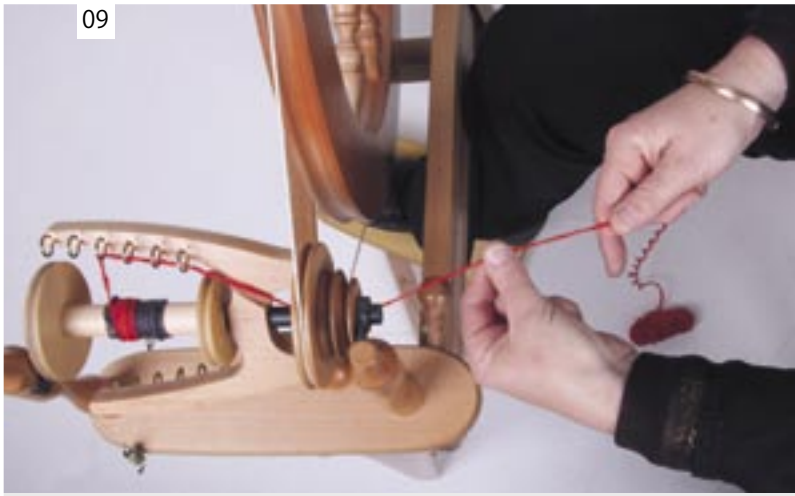
手と足の練習：左手で練習用の毛糸の輪の辺りを持って、はずみ車が時計回りになるようにペダルを踏みはじめます。そして、左手で吸込み口に糸を送り込みます。



この時、右手から糸が滑り出てくる感じにします。



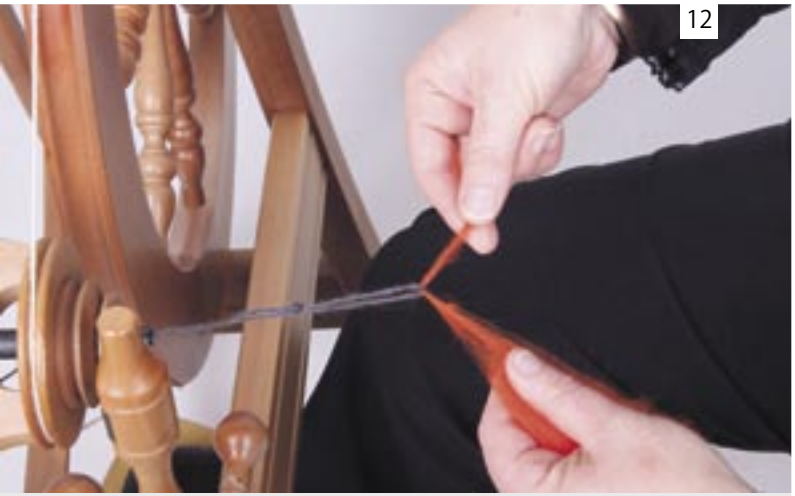
糸を引く練習：1. 左手で糸を持ちます。2. 指の力を少し弱めて、糸に添って手前へ滑らせると、撚りが指を伝ってきます。3. 糸全体に撚りが入ってしまう場合は、再び持つ力を強めます。4. 吸込み口に糸を送り、ボビンに巻き取らせます。



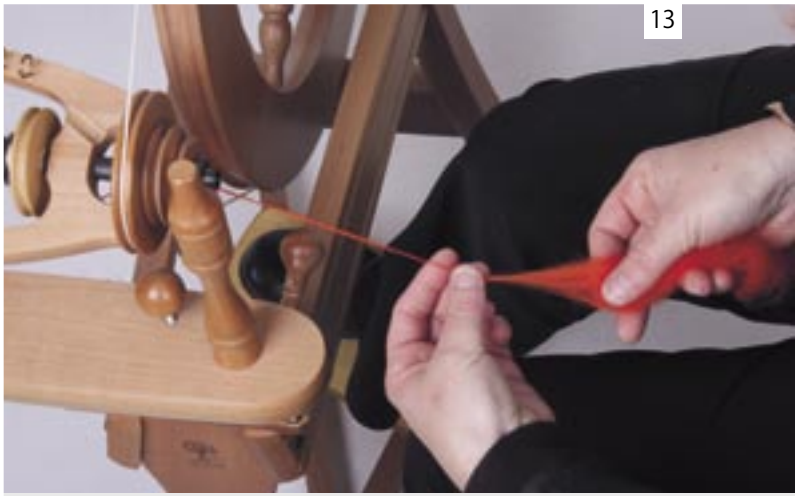
手もとの糸が無くなるまで、この練習を続けます。

手もとの糸がなくなったら、ブレーキバンドを外し（シングルドライブの場合）、巻き取られた糸を全て引き出して、もう一度やってみましょう。手と足のバランスがとれてきたら、いよいよスライバーで練習です。

紡ぐ：適度な長さのウールスライバーを手に取り、端を少しつまみ出します。



引き出した繊維を、みちびき糸の輪に通して折り返します。ペダルを時計回りにゆっくりと踏み始め、スライバーの繊維に軽く撚りがかかるまで回し続けます。これでいよいよ手紡ぎの準備が整いました。



引き続きペダルを踏み、左手で糸を持って、右手の繊維を引き出します。左手の力を緩めて、手前に滑らせると撚りが入ります。再び力を入れ、糸になった部分を吸い込ませて、ボビンに巻きます。これを繰り返します。

右手のスライバーに撚りが入ってしまう場合：一度足を止め、撚りが入ってしまった部分を取り除いてやり直します。右手は、繊維を引き出しやすいように、常に軽くにぎります。これがつながった糸を紡ぐコツです。

糸をつなげる：時計回りにペダルを踏んで、左手で持った糸のすぐ脇にスライバーを添わせます。繊維の先が糸の撚りに巻き込まれてきたら、そのつなぎ目の部分を左手で持って、再び糸を引きはじめます。

16

ここまでのヒント：

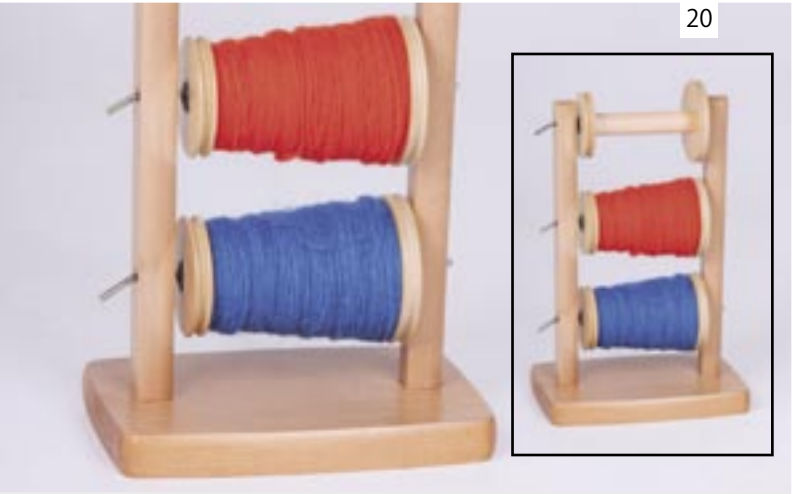
1. 紡ぎ車から少し離れて座ります。イスの背にもたれて、リラックス。手もとに作業スペースをあけます。
2. でこぼこ糸でもOK - 自分で紡いだ初めての手紡ぎ糸は、素敵な "ファンシーヤーン" です。
3. じっくり時間をかければ、きっと自分なりの紡ぎのリズムをつかめます。
4. 糸が切れて吸込み口に入ってしまった時は、端を探して、引き出しフックでもと通りに引き出します。
5. ボビンに糸が巻き込まれない場合・・・
   a）シングルドライブの場合は、ブレーキバンドの張りを、ダブルドライブの場合は、ドライブバンドの張りを少し強めます。b）吸込み口の中やフライヤーフックで、糸が引っかかっていないか確かめます。
6. ペダルを踏む速さや手の動きによって、糸の撚りの量を変えることができます。

17

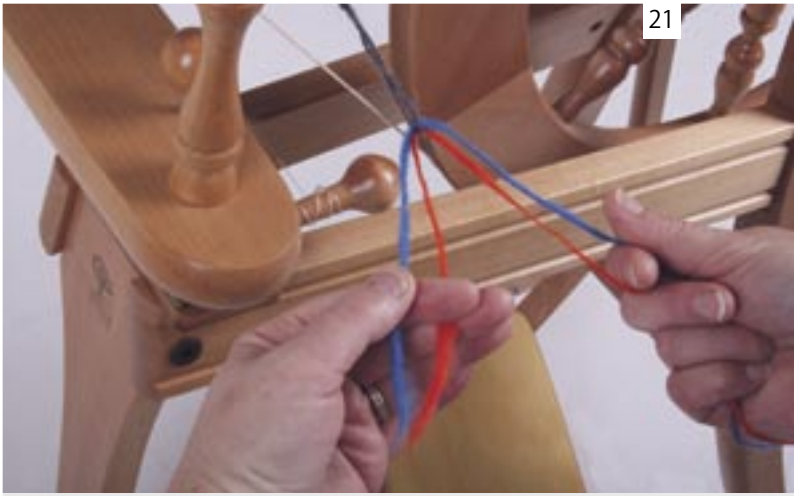
ボビンに巻き取る：糸が山になってきたら、隣のフライヤーフックに糸をかけ替えます。ボビンがいっぱいになるまで、これを度々くり返します。

ボビンの交換 – シングルドライブ：（ダブルドライブの場合は、ステップ28へ）ブレーキバンドをボビンから外します。ボビンの向こう側を持って、後ろのフライヤー軸受けからフライヤー軸を外し、ボビンを引き抜きます。

空のボビンをフライヤー軸に差し込んで、フライヤー軸をしっかりと軸受けに戻します。ブレーキバンドをボビンにかけて、張りを確かめます。



撚りあわせ：紡いだ糸は、2本撚りにして強くバランスのとれた糸にしましょう。ボビンたてに、いっぱいになったボビン2本を取り付けます。この時、2本のボビンプーリーの大小の向きをそろえて取り付けます。



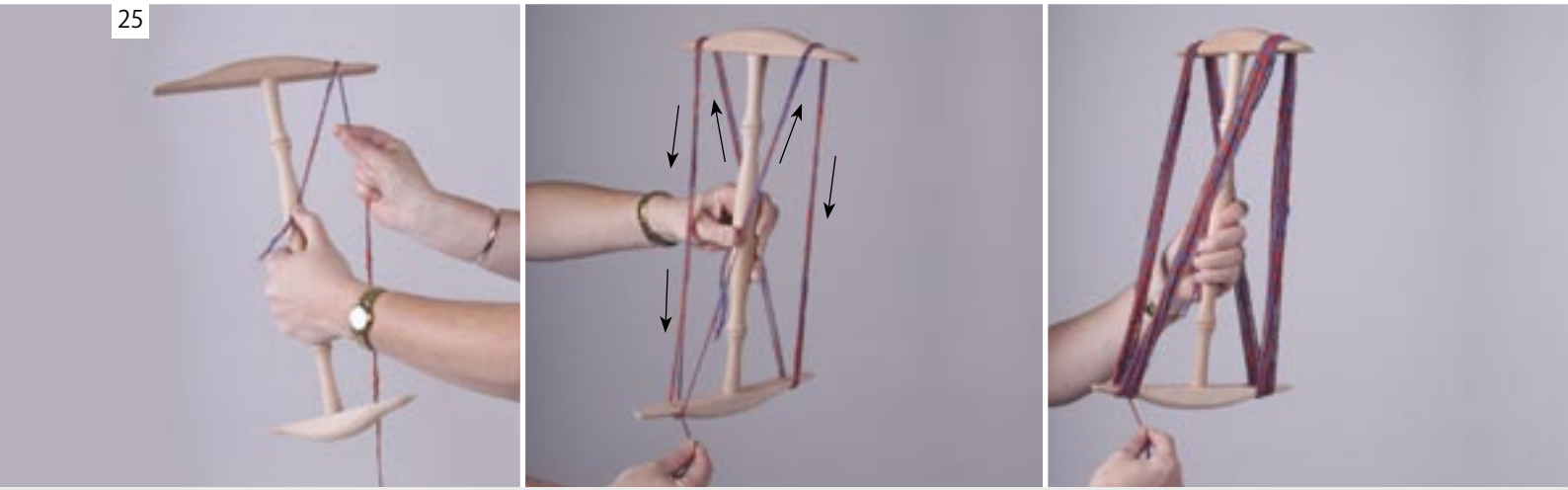
紡ぐ時と同様に、みちびき糸を吸込み口から引き出します。ボビンたてに取り付けた2つのボビンのそれぞれから糸を引き出し、みちびき糸の輪に通し、10cmくらい折り返すようにします。

今度は、**反時計回り**になるようにペダルを踏みます。左手で糸を持ち、撚りがかかる手前に指を挟んで2本の糸を分けます。持つ力を弱めながら、手を手前に滑らせて撚り合わせ、再び持つ力を強め、吸込み口に送りボビンに巻き取ります。

これをボビンがいっぱいになるまで続けます。

ここまでのヒント：

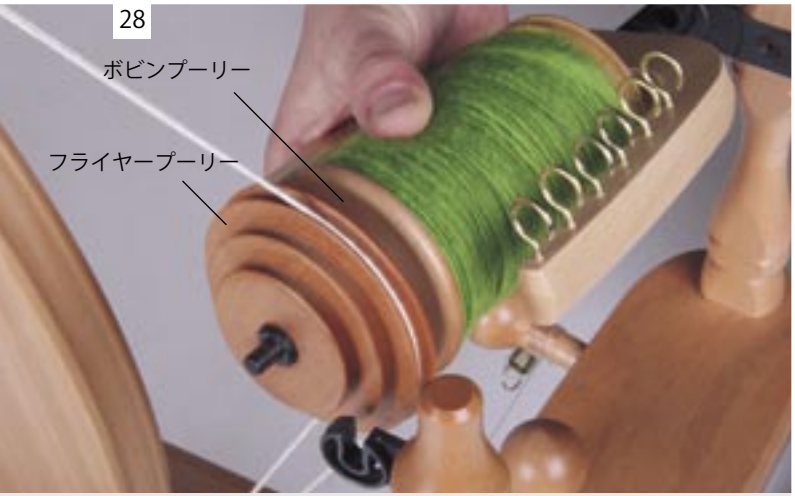
1. 細い糸は、強くするために太い糸よりも多くの撚りが必要です。
2. ボビンがうまくいっぱいになるように、時々フライヤーフックの糸を掛け替えます。
3. もしも、とても太い部分が手もとにきたら、足踏みを止めて、手でボビンを回して吸い込ませます。
4. 撚りあわせをする時は、ブレーキバンド（シングルドライブ）、またはドライブバンド（ダブルドライブ）の張りをやや強めにします。
5. 3本撚りの場合は、3つのボビンを使って同様にします。



かせに取る：撚りあわせが終わってボビンがいっぱいになったら、かせに取ります。まず、紡ぎ車のブレーキバンド（シングルドライブの場合）または、ドライブバンド（ダブルドライブの場合）の張りをゆるめます。ニッディノッディの真中辺りを握り、親指で糸を押さえたら、図の矢印の順番をたどって全ての糸をニッディノッディに巻き取ります。

短い糸を4本用意して、4辺の真中辺りを結びます。

ニッディノッディから糸を外したら、さあ、これがあなたの初めてのかせです。かせを撚ったら、あなただけのオリジナル手紡ぎ糸のでき上がりです。



ダブルドライブの場合

ボビンの交換：フライヤープーリーの軸を後ろのフライヤー軸受けから外して、ドライブバンドをボビンとフライヤープーリーから外します。

ボビンとフライヤープーリーの後ろの方を握ります。

フライヤープーリーを引っぱり、フライヤー軸から外して、ボビンを引き抜きます。

空のボビンを差し込んで、フライヤープーリーを押し込みます。ドライブバンドをボビンとフライヤープーリーにかけ直して、フライヤープーリーの軸を軸受けにしっかりと戻したら、ドライブバンドの張りを確かめます。

ダブルドライブをシングルドライブとして使うには：ダブルドライブの紡ぎ車は、2本のドライブバンドを両方ともフライヤープーリーにかけて、ボビンプーリーにブレーキバンドをかけると、シングルドライブとして使えます。シングルドライブの要領で、ドライブバンドとブレーキバンドの張りを調節して下さい。（ダブルドライブ時にはブレーキバンドは使いません）

・・・それでは、手紡ぎを存分にお楽しみ下さい。 ″ Happy spinning! ″

よくある質問

1）ペダルを軽くして、足踏みを楽にするには？

それには、はずみ車とフライヤー、ボビンの全ての部品が軽く回っている必要があります。まずは、ドライブバンドとブレーキバンドを外して、アシュフォード スピニングウィールオイルか、ミシン油、またはワセリンを右図の各所に注します。

A. はずみ車

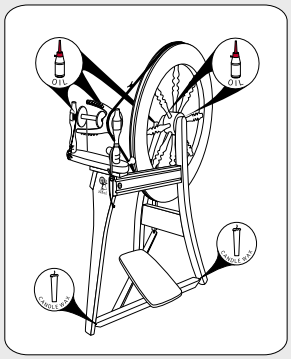
空回りさせた時に、20回転くらいするのが良い状態です。

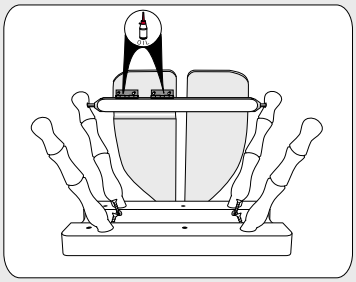
- はずみ車の軸受け - はずみ車の支えを開き、はずみ車の軸と軸受けの間に油を注します。
- コンロッドベアリング - 油を注して、それ自体がきつくなってしまっていないか確かめます。
- ペダルピン - 摩擦と音を減らすために、ロウソクのロウか油を塗ります。
- ダブルペダル紡ぎ車の蝶番 - 必要に応じて注油します。
- はずみ車とはずみ車の支柱（足）の間に、1〜2mmのすき間があるか確かめて下さい。もしもはずみ車が支柱にきつく挟まれている場合は、本体の枠とはずみ車の支柱を留めているボルトを十分に緩め、はずみ車を回しながら、徐々にボルトを締め直します。
- コンロッドとペダルのすき間が約12mmあるかを確かめて下さい。もしもこれよりも開いている場合は、足首が疲れることがあります。また、これよりも狭い場合はコンロッドとペダルが引っ掛かり、つなぎ目の部品を引き伸ばしてしまいます。

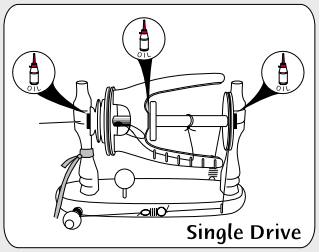
B.フライヤー

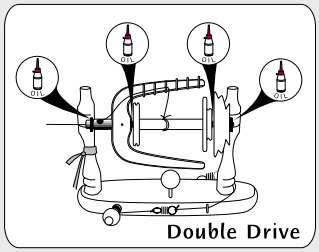
回してみた時に、空回りするのが良い状態です。

- すべての回転箇所に（右図）油を注します。
- フライヤー軸受けがフライヤー軸に対して正しい角度になっているか確かめます。なっていない場合は、フライヤー支柱のネジを緩め、角度を直します。
- フライヤーとボビン、そしてフライヤー軸受けそれぞれの間にだいたい2〜3mmのすき間があるか確かめます。
- ドライブバンドがはずみ車と一直線上にあるか確かめます。必要ならフライヤー台のネジを緩めて調節します。









C. ボビン

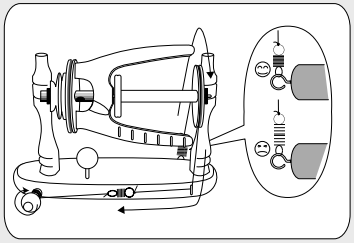
- ボビンのベアリング（両端のプラスチック部分）に油を注します。
- ボビンが軽く回らない場合は、ベアリングがフライヤー軸に対して、少し小さい可能性があります。その場合は、鉛筆など細い棒に細番手の紙やすりを巻いて、削って穴を広げて下さい。
- 塗装済みの紡ぎ車の場合は、フライヤー軸に付いている塗料を取り除いて下さい。
- ダブルドライブの紡ぎ車は、フライヤープーリーの溝はＶ字型、ボビンプーリーの溝はＵ字型になっています。この違いによって、はずみ車がフライヤーを一定の速度で回して、撚りかけのときにボビンを加速、または減速させる事ができます。そのボビンプーリーの溝が滑らかで、Ｕ字型になっているか確かめて下さい。

2）糸が引き込まれない場合は？

・ボビンが軽く回るか確かめます。
・フライヤーフックの表面が滑らかか、また、糸が引っかかっていないか確かめます。
・吸込み口がきれいか確かめます。

A.シングルドライブ

・ブレーキバンドがボビンプーリーにかかっていて、スプリングがちょうど伸び始めるくらいの張りであることを確かめます。



B.ダブルドライブ

・ドライブバンドが、ボビンプーリーの小さな輪とフライヤープーリーの一番大きな輪にかかっていることを確かめます。
・ドライブバンドに十分な張りがあるか確かめます。

3）手から糸が引き抜かれてしまうのを防ぐには？

A.シングルドライブ

・ブレーキバンドの張りを、スプリングが伸び始めるくらいになるまで弱めます。
・ボビンプーリーの溝の表面が滑らかかどうか確かめます。そうでない場合は紙やすりで滑らかにします。
・ボビンプーリーに油を注します。

B.ダブルドライブ

・ドライブバンドの張りを弱めます。

4）ドライブバンドの張りはどのくらい？

・フライヤーとボビンが、滑らないで回るくらいの張りがあれば十分です。張りすぎると足踏みが重くなります。
・一般的には、ドライブバンドを指で軽く押したときに、25mm程下がるくらいです。張りが丁度良くなるまで、ドライブバンド調節ノブを回して調節します。
・ドライブバンドが伸びてきてしまったら、短く切って結び直します。

5）ブレーキバンドスプリングが2つあるのはなぜ？

ボビンプーリーの両側にスプリングをつけることによって、ブレーキバンドが、ブレーキバンド調節ノブ自体を引っぱる代わりに、ブレーキバンドを伸び縮みさせるので、撚りかけが容易になります。予備のスプリングは、お近くのアシュフォード代理店でお求め下さい。

6）糸の撚りすぎを避けるには？

・ドライブバンドをフライヤープーリーの大きな輪にかけます。
・足踏みを遅くします。だいたい1分間に60回転が心地のよい足踏みのスピードです。
・糸を引く手を速くします。この場合は、紡ぎ始める前に繊維の準備をよくしておいた方がいいかもしれません。

7）糸が切れてしまうのを避けるには？

・足踏みをほんの少し速くして、糸を強くします。
・引く繊維の量を増やして、少し太めの糸にします。
・紡いだ糸伝いに持った指を滑らせば、常に糸に触れていることになります。これは、手元の繊維が全て「ねじれて」しまうことも防ぎます。

8）紡ぎ車が離れていってしまうのを防ぐには？

・紡ぎ車の調子が良いか確かめます。*1）を参照
・前方よりも、真下に向かう感じでペダルを踏みます。
・紡ぎ車とイスの下にラグなどの敷物を敷きます。

9）紡ぎ車の塗装はなにが一番？

アシュフォードの紡ぎ車は、資源管理された森から採れる、美しいニュージーランド原産の木材、サウスランド シルバー ビーチ材でできています。もしも、お持ちの紡ぎ車が白木の場合は、染みが付くのを避け、様々な気候の変化から守るために、なるべく早く保護して下さい。

塗装には、アシュフォードチークワックスをお勧めします。また、その他の上質なウッドオイルかワックス仕上げ剤でも大丈夫です。アシュフォードの工場でラッカー塗装されて出荷される紡ぎ車は、そのチークワックス仕上げによって、より高い品質となっています。

手紡ぎについての詳しくは、以下の
アシュフォードの本をどうぞ。
" The Ashford Book of Spinning "
" The Ashford Book of Carding "
" The Ashford Book of Dyeing "

ashford
WHEELS & LOOMS

Ashford Handicrafts Limited
工場＆ショールーム: 415 West Street
P O Box 474, Ashburton, New Zealand
電話: +64 3 308 9087
ファックス: +64 3 308 8664
E-mail: sales@ashford.co.nz
ホームページ: http://www.ashford.co.nz

紡ぎの素材にはアシュフォードのコリデール、メリーノ、アルパカブレンドスライバーがおすすめです。